

先着
100名

生まれてきてはいけない 命などあるのか

—— 優生思想、差別、戦争の歴史をこえて ——

日時

9/5 土

開場 13:30

開演 14:00~16:30

札幌市中央区北1条西13丁目7

場所

教育文化会館 研修室301 (地下鉄東西線 西11丁目駅 徒歩5分)

参加無料

予約不要

オンライン配信の視聴をご希望の場合は
事前のお申込みが必要です。

URL: <https://forms.gle/jamj8MTHXQGHg2Df6>



かつてこの国には、「不良な子孫の出生を防止する」という目的を掲げ、人々の尊厳あるいは人生そのものを取り返しのつかないほど傷つけた「優生保護法」という法律が約48年間にわたり存在しました。同法は多くの被害者を生み出しましたが、ここ北海道では、全国で最も多い被害者を出しました。2024年の違憲判決を経て被害救済の道が開かれましたが、命を「役に立つかどうか」で切り分ける優生思想の冷酷な論理は現代の日本社会に今なお根深く息づいています。

相模原障害者殺傷事件から10年となる今年、優生思想の歴史的背景をひもとき、誰も排除されることのない未来について共に考えたいと思います。

講演

会場には 手話通訳、UDトーク を配置します



藤井渉さん 講演「命の選別に抗う ～戦力ならざる者の戦争と福祉～」

日本福祉大学社会福祉学部准教授。戦争と障害者などをテーマに障害者福祉論を研究している。大阪精神医療人権センターの面会ボランティアなども行っている。著者に「ソーシャルワーカーのための反『優生学講座』—「役立たず」の歴史に抗う福祉実践」(現代書館、2022年)など。

安積遊歩さん 講演「人種差別と種差別、障害者差別をつなぐ優生思想」

福島県福島市生まれ。骨がもろいという特徴をもつ体で生まれたために何度も骨折を繰り返してきた。1994年、カイロ会議で日本の優生保護法の問題を訴え、1996年、優生保護法が改定された年に娘を出産。優生思想の撤廃や、子育て、障害を持つ人の自立生活運動など、さまざまな分野で当事者として発言を続ける。著者に「癒しのセクシー・トリップ」(太郎次郎社、2017年)、「このからだは平和をつくる」(大月書店、2022年)など。

第一部

第二部

クロストーク



藤井渉さん ×



安積遊歩さん